

2019 年度

# 人権作品集

「人権」に関する標語選定作品 小学五年生

あいさつと

えがおでつながる

人と人



「人権」に関する図画選定作品

小学2年生



「人権」に関するポスター選定作品

中学3年生

「大丈夫」

隠した本音

見逃さないで

「人権」に関する標語選定作品 中学二年生

## はじめに

名張市・名張市教育委員会・名張市人権啓発まちづくり事業推進会議では、日常の家庭生活や学校生活、社会生活などでの体験を通して実感された、人権を守ることの大切さや偏見・差別などの社会の不合理をなくしていくことへの思いを表現した人権作品を、市民のみなさまから募集しています。

本年度も、小学生・中学生・高校生・高等専門学校生をはじめ市民のみなさまから、作文・標語・図画・ポスター、そして今年度より新たに募集した「人権メッセージ あなたの大切な人へ」を合わせて一万二千三百五十八作品もの応募をいただきました。たいへん多くの方々から、人権作品に取り組んでいただいていることに対し、感謝を申し上げます。

提出していただいた作品の中には、家庭や学校・社会生活で自ら体験したことや感じたこと、そして学習で学んだことを通して、人権尊重の大切さや、差別をなくしていくための意見、感想が述べられているものや、自分自身を振り返り、差別をなくしていくこうとする姿勢や意欲が伝わってくるものが数多く見られました。

この作品集は、応募いただいた作品の中から、作文十作品、標語十三作品、図画・ポスター二十作品、メッセージ五作品を選定し、掲載しています。本誌を、人権について考えるきっかけとするとともに、さまざまな学習の場でご活用いただければ幸いです。

なお、これらの作品の中から、図画・ポスターの一作品、標語の一作品を人権啓発用ティッシュ、図画・ポスター八作品、標語五作品、メッセージ一作品を来年の人権カレンダーのデザインとして活用させていただきます。ありがとうございます。

# 目次

## 作文

### 【小学生の部】

	学年	ページ
○もっとみんなとなかよくなりたい	一年生	4
○男の子と女の子	二年生	5
○「うざい」と言ってしまったわたし	四年生	6
○みんなと仲よくするために	四年生	7
○なりたい自分になりたい	五年生	8
○自分が変われば 相手も変わる	六年生	9
○いのちや人権に向き合って	六年生	10
○自分を変えらるということ	六年生	11

【中学生の部】

○「空気を読む」とは何ですか

一年生 . . . 12

○優しさのカタチと想像のチカラ

三年生 . . . 13

標語

【小学生の部】

. . . 15

【中学生の部】

. . . 16

メッセージ 「あなたの大切な人へ」

. . . 17

【高校生・高等専門学校生・一般の部】

図画・ポスター

【小学生の部】

. . . 18

【中学生の部】

. . . 21

## 作文【小学生の部】

もつとみんなとなかよくなりたいたい

(小学一年生)

わたしは、にゆうがくしてから、なかなかともだちができませんでした。でも、あるひ、Aさんが、「いっしょにあそぼう。」

とこえをかけてくれました。そのとき、とてもうれしかったです。しようがっこうではじめてともだちができました。こえをかけてもらって、うれしかったので、わたしも、Aさんのように、ともだちをさそいたいとおもいました。

五がつごろ、すごくかなしいことがありました。はつぴょうのれんしゅうをしていたとき、おなじはんのBさんが、ふざけてれんしゅうにさんかしてくれませんでした。わたしはすごくいやになりました。きちんとしてほしかったけど、ちゆういできなくて、しんどかったです。

そのとき、CさんがBさんに、「ちやんとしないとだめだよ。」

といってくれました。わたしはすごくうれしかったです。そのあと、Bさんもきちんとれんしゅうにさんかしてくれました。きつとCさんがやさしくちゆういしたから、

Bさんもきちんとれんしゅうしてくれたのだとおもいます。わたしも、Cさんのようにやさしくともだちにちゆういできるひになりたいとおもいました。

わたしがあたまがいたかったとき、Cさんが、「だいじょうぶ。」

とはなしかけてくれました。あたまはいたかったけど、こころはうれしくなりました。わたしもこまっているこがいたら、

「だいじょうぶ。」

とはなしかけたいとおもいました。

わたしは、AさんやCさんのように、ともだちにこえをかけられるようになりたいです。

わたしは、Dさんとなかよくなりたかったので、

「いっしょにあそぼう。」

とこえをかけました。また、Eさんがこけたときに、

「だいじょうぶ。」

とこえをかけました。こえをかけたら、ふたりともともよろこんでくれました。だから、これからもともだちにどんだんこえをかけて、もつとみんなとなかよくなりたいたいです。

男の子と女の子

(小学二年生)

この前、分だんのみんなと学校まで行くと中に、ちがう分だんの四年生の二人が、わたしのランドセルの方を見て、

「女の子やのにしろいランドセルやな。」

というようなことを言っているのが聞こえました。わたしは、「じぶんのランドセルの色がなんかあかんのかなあ。」と思いました。すこしいやな気もちになりました。そのことで、もやもやしていたので、家に帰ってから、おとうさんとおかあさんにこのことを話しました。おとうさんとおかあさんは、

「女の子でもくろでいいのにな。くろは男の子の色やつてきめつけてるみたいやな。」

と、言いました。わたしは、じぶんが気に入ったランドセルを買ってもらったので、大切にしたいと思っています。「じぶんでえらんだ大切なものやし、何か言われても気にしやんとこ。」と思いました。おとうさんとおかあさんに話をしたことで、すこしすっきりしました。

べつの日に、教しつで友だちと話をしているとき、けっこんした時の名字の話になりました。

「けっこんしたら、男の子の名字になるから、女の子は

名字がかわってしまふなあ。」

と、何人かの子が話していました。わたしは、

「でもさあ、女の人の名字にすることもできるんやで。」

と、言いました。すると、先生が、

「よく知ってるなあ。さい近は、けっこんしてもべつべつの名字で生かっできるようにしようかという話もあるんやで。」

と、言いました。わたしは、けっこんしたらどちらの名字にしてもいいことを知っていました。なぜかというところ、家で名字のことについて話しているテレビを見ていたときに、おとうさんに、

「けっこんしたら、ぜったい男の人の名字になるん？」

と、聞いたからです。すると、

「女の人の名字でもいいんやで。」

と、教えてくれました。

けっこんしてからのことは、分からないけど、わたしは、今の名字が好きなので、このままでいたいと思っています。

男の人、女の人と分けなければならぬこともあると思うけど、そんなことを気にしなくていい、じゆうなせかいになってほしいと思っています。わたしも、男の子、女の子かんけいなく、いろんな人となかよくしようと思います。

「うざい」と言ってしまったわたし

(小学四年生)

わたしは、Aさんにむしされたと思ってかなしくて、「うざい。」

と言ってしまいました。その時は何も思わなかったけど次の日、言ってはいけないことを言ってしまったなど反省しました。

あやまろうと思ってAさんに、

「ごめんなさい。」

と伝えましたが、Aさんは首を横にふっていました。わたしは、他に悪いことしたのかと考えましたがわかりませんでした。

学校が終わって学どうに行っても気になるし、家に帰ってご飯を食べ終わっても気になりました。すわっていたら急になみだがでてきました。どうしていいかわからないし、こんなことになったのは初めてだから、どうすればいいのかわからなくなりました。

ママとパパに相談したら、

「たい度は変えずにふつうに過ごして、もしそれでも気になるならAさんに聞いてみたらどう。」

と言ってくれました。

わたしは次の日学校に行ってAさんに、

「わたし悪いことしたかな。」

と聞いたらAさんは、前と同じように首を横にふりました。その日の帰り道わたしは、なやみました。どうしたらいい

のかわからず、ママのアドバイスを聞いて接してみたけどダメでした。

「少しきよりをおいて、ふつうにしとき。」

とママからも一度アドバイスをもらったので、わたしはふつうにすることにしました。

それから、学校に行くのが楽しくなくなりました。

日がたつてわたしは、Aさんとなか直りできるのかなと心配になってきました。Aさんは、わたしにとって大切な友だちだからまた楽しく遊びたいと思いました。

次の日、学校へ行つてAさんと仲直りがしたくて、Aさんとわたしと先生で話し合いをしました。

初めは自分の気持ちを上手く伝えることができませんでしたが、話していくうちに少しずつ自分の気持ちを伝えることができました。するとAさんは、「友だちからわたしが言ってもない悪口を言っていたと聞き、わたしにおこっていた」という本当の気持ちを聞くことができました。わたしは、あやまった後、Aさんに悪口を言っていないことを伝えました。おたがいの気持ちが知れたのでとってもうれしかったです。

今はいっしょに外で遊んだり、中で遊んだりするようになりました。

話し合いをして良かったと思いました。今回のことで気付いたことがあります。それは「気持ちがすれちがったときに、自分の気持ちを伝えること」、「人の悪口を言わないこと」、「友だちを大切にすること」です。この三つのことをこれからも大切にしていきたいです。

みんなで仲よくするために

(小学四年生)

三年生の時に、ひなち文化センターに行つて、「ひとりよりみんなでやればきつとできる」という人けんカルタを書きました。理由は、そうじをしたり、たくさん荷物を運んだりするのは、一人では大変だけど、みんなでやるとそうじもすぐ終わつて、たくさん荷物もすぐ運べるので一人よりもみんなのほうができるからです。

四年生になつて学年が上がり、もう一度カルタをふり返つてみました。ぼくは、カルタを作つた時の自分と、今の自分をくらべると、少し変わったことがあります。

一つ目が変わつたところは、友だちに「いっしょにやろう。」とさそえるようになったところです。例えば、ドッジボールをしている時に、「ボールを投げていいよ。」とゆずつてあげられるようになったり、そうじで「このつくえやいすを運ぶのを手伝つて、いっしょにしよ。」と言えるようになったりしました。友だちをやさしくさそふことができる、気持ちがよくありません。また、仲よくすればみんながえがおになれると思います。

二つ目が変わつたところは、みんなにあいさつができるようになったところ。あいさつはとても大切だとぼくは思います。なぜかという、ぼくがあいさつをした時に、友だ

ちからあいさつが返つてくると、とてもよい気持ちになるからです。三年生の時は、あいさつをすることが少しはずかしかつたけれど、カルタ作りを通して、あいさつをみんなですると全然はずかしくなくなりました。さらに自分からみんなにあいさつをすると、もつとよい気持ちになりました。

三年生の時から変わらず、今も続けていることがあります。それは、みんなで楽しく遊ぶということです。例えば、家ちがう学年の子が遊びに来た時、弟がいてもみんながいつしよに仲よく遊ぶことができている。みんなが仲よく遊ぶために、小さい子にやさしくしてあげたり、みんなができる遊びを工夫したりしています。これからも変わらず続けていきたいです。ぼくには、これから変わつていきたいことがあります。それは、自分の気持ちをしっかりと相手に伝えることです。今のぼくは、やりたいことがあつてもさそわれた時に、しっかりと理由を言つてことわることができません。それは、相手がいやな気持ちになると思います。なので、これからは自分の気持ちをしっかりと伝えていきたいです。

ぼくはこれから、そうじや荷物を運ぶこと、遊びやあいさつなどの一人よりも、みんなでしたほうがよい気持ちになれることをもつとふやしていきたいです。そのために、ぼくから「ひとりよりみんながやればきつとできる」というカルタに書いた気持ちをみんなに伝えて、その気持ちを広めていきたいと思ひます。

なりたい自分になりたい

(小学五年生)

ぼくは、今までは悪口を言ったり、ぼう力をしたりしてました。例えば死ね、あほ、バカ、デブというぼう言をはいたり、友だちをたたいたりしてました。先生や親たちには、「自分がされるのがいやなことは、したらアカン。」

と言われたけど、やっぱりケンカした時は、それを思ってもぼう言をはいたり、たたいたりしてました。

ぼくは、なぜケンカしたらぼう言をはくのだろうと思いましたが、自分では、みんなと仲良くしたり、ケンカをしても仲直りがしたいから、すぐあやまりたいけど、なぜかできません。だから、自分も友だちも一度落ち着いてから話し合いをして、自分の悪かったことを言うことにしています。

最終的には仲良くするけれど、やっぱりぼくは、自分の気持ちをおさえられないので、ぼう言をはいてしまいます。だから、今は、もうそんな自分をやめて、なりたい自分、自分が好きな自分が変わっていくようにしています。

もし、それでもぼう言をはいてしまったらあやまります。自分たちだけで解決できなかったら、先生と一緒に解決したいと思います。

今、ぼくはじゅくじゅくに算数を習いに行っています。もし、学

校でだれかが分からなかったら、だれにでも分からない所を教えたいと思います。

そして、もしだれかがケンカをしていたらぼくは声をかけて止めたり、先生をよんだりして、とにかくケンカを止めたいです。

五年生になって、フィリピンから来た子が転入してきました。タガログ語を話すそうです。先生が、

「ゆっくりかんたんな言葉で話しかけよう。」

と言ったけれど、何から話していいか分かりませんでした。その日、家に帰ってインターネットでタガログ語を調べて書きました。

「おはよう。マガンダウンマーガ。」

「元気ですか？クムスタカ？」

「わたしは、フィリピンが好きです。ゲスト コサフィリピナス。」

話しかけると、Aくんは笑顔になりました。ぼくもうれしかつたです。その日、みんな

「ありがとう。サラマツポ。」を覚えて、学校で何回も使いました。

ぼくが話しかけて、Aくんが笑顔になったり、ケンカをしていた子が仲直りしたりするのがうれしいです。

これからも、そんなことができる「なりたい自分」に変わっていききたいです。

## 自分が変われば相手も変わる

(小学六年生)

私は、六年間で「いじめはしない」「きつい態度はとらない」「差別はダメ」ということを学んできました。その度に、それって当たり前じゃないの、と思っていました。でも、心の中ではそう思っていない、「苦手だな」「むかつくな」と思ったときは、きつい態度をとってしまいます。ある人だけに、このような態度をとり続けると、「差別」につながり「いじめ」にもつながるのだと思います。しかし、きつい態度をとってしまい、気づいたときはそんな誰でもあることだと逃げてしまいます。わかってはいるけどなかなか変えることのできない自分の弱さだと思います。

自分の弱さがよく出ていたのは、六年生の一学期のある休み時間の出来事です。その日はみんな遊びでした。けいドロをするので、ビブスが必要でした。でも、同じお楽しみ係の準備をするAちゃんが、ビブスを取りに行かず遊びに行こうとしていました。なので、取りに行くように声をかけましたが、気づかずに行っていました。そこで、思わず、「Aちゃん、準備をするのはAちゃんって決めてあんねんから、ビブス取りに行かないと、あかんやん。」

と、強く言っていました。Aちゃんは、「忘れてただけやん。そんなに強く言わんでもいいやん。」

と、言いました。私たちだけでなく、周りの雰囲気も悪くなりました。Aちゃんは仲が良い子と、そうでない子に対して態度の差があり、苦手な子でした。私は、Aちゃんに対して苦手な意識があり、特別な目で見ていたため、きつい態度をとることがこれまでも何度かあり、またやっちゃったと思いました。その後、たしかに自分もきつい態度をとってしまっていたな、自分で取りに行けば良かったなと思いました。

この出来事から、私は、「自分の弱さだとわかっているのに、変えられないということは自分自身が変わろうとしていないのかも」と考えました。そして、「自分の行動を変えようとしていないせいで、大切なクラスの友だちを傷つけてしまった」と感じました。

これから私は、自分自身がきつい態度をとらないように、意識していきます。きつい態度をとってしまいそうになったら五秒間深呼吸をしようと思います。それは、お母さんから「五秒間、きつい態度をとってはだめ」とアドバイスももらったからです。そのアドバイスを活かして、五秒間で心を落ち着かせて、きつくなってしまうのをおさえたいです。

私が、きつい態度をとらなくなつてから、Aちゃんと仲よくなりました。前まで苦手意識から特別な目で見ていたけど、自分の態度を変えることで相手も変わること気がつきました。

これから先、同じような場面があっても、自分自身をみつめて行動していきます。

## いのちや人権に向き合って

(小学六年生)

五月に、人権集会に参加した友だちから報告会がありました。その集会に参加している人の中に、こわい顔のおじさんがいたそうです。でも、話してみるととても優しく、顔で決めつけてしまったことを反省したそうです。その話を聞いて私も、近所のおじいさんの顔がこわくて話せなかったけれど、ついこの前におじいさんの方から話しかけてくれて、とても優しい方でした。それから姿を見るとよくあいさつするようになって、あいさつするといつも笑顔で返してくれます。私はかんちがいしていたのだと思いました。

また、九月には保健の先生から「いのち」について学びました。先生のおなかの中に赤ちゃんができたときの話を聞いて、私のお母さんも、おなかの中に私ができたときのことと分かったとき、すごくうれしかったと言っていたことを思い出しました。でも、私は二人目だったから、姉の時よりは安心だったけれど、すごく不安だったとも言っていました。

そのときどんな気持ちだったのか、今日の学習でよく分かりました。それは、おなかの中で赤ちゃんが死んでしまったり、流れていってしまったりすることがあるから、とても心配で一生懸命守ってくれていたのだと分かりました。

赤ちゃんは、生まれたしゅんかんに普通は大きな声で泣く

のに私は泣かなくて、お母さんはすごいショックだったけれど、助産師さんが必死に私を泣かせようとしてくれて、数分後、やっと泣いたそうです。お母さんは、人生の中であまりピンチだと感じたことはないけれど、そのときが一番こわかったと話してくれました。自分が生まれてきたことは、奇跡ともいえるくらいすごいことだということも分かって、お母さんやお父さんや色々な人に感謝したいと思いました。

そして、世界中の人たちが、それぞれこの世の中に生まれてきたことが素晴らしいことで、大切ないのちなのだと思います。だから、たとえ気が合わなかったとしても、それぞれがその人の個性なのだと受けとめて、大切にできるようになりたいと思いました。自分自身も、これから先、いやなことがいっぱいあつて、もう生きていけないと思うことがあつても、自分も一つの大切なのちなんだということを忘れずに、自分らしくせいっぱい生きていこうと思いました。

私は、差別とかいじめとかは嫌いだから、自分は絶対にしていないと思っていたけれど、実際は心のどこかで「あの人、顔こわい」とか「話しにくそう」とか思っていて、そういうことも差別だし、そういうことがいじめにつながるのだと気づきました。これからはそこにも気をつけていきたいと思っています。

いのちや人権の学習で、クラス全員の意見を聞いて、たくさんのお話を自覚することができました。二十三人の仲間が支えてくれていると改めて感じました。

## 自分を変えるということ

(小学六年生)

私は、一年生の時にいじめをうけていました。

福岡の小学校に転校したばかりの私は、はずかしくていとことしか話せませんでした。でも、ちよつとだけみんなと話が出来るようになり、それがうれしくてもっとみんなと仲良くなりたいたいと思うようになりました。すると、Aが、

「お前のしゃべり方へんばい。ようそんなしゃべり方で話せるわ。Bもそう思わんか。」

と言ってきました。私は泣きそうになりました。

でも、いとこのCと友だちのDは、

「そんなこと気にせんでいいよ。Aは、あんたのことよう知らんだけやけん。」

と、はげましてくれました。その言葉で、私は元気をもらいました。それから、男の子たちに何を言われても気にしないようにしようと思つたからです。

いじめが始まってから一週間くらい経ちました。いじめられていたことは、親には伝えませんでした。親や先生に迷惑をかけるしもうと思つたからです。

いじめは、どんどん大きくなり、

「三重県に帰れ。」

「おれたちに話しかけんな。」

「女の子たちと仲良くするな。しゃべるな。」

など、紙に書かれました。他にも、くつをかくされたり、物をかくされたりしました。その時は、先生にかくされたことを言わず、忘

れてきたと言いました。

このようにいじめが続き、CはAたちに、

「よく毎日いじめをしないと、あきんどね。あんたらしつこいね。」と、言いました。でも、Aは、

「そいつのこと守って、ヒーローきどりですか。」

と、Cに言い返しました。その時、私の心が限界にきました。

「お前らが私のことをいじめるからCが言ってくれとんのに分かん。ヒーローの何が悪いんや。」

と、Aのことをにらみつけて言っていました。

私は、この時初めて心の奥にとどめておいた気持ちをはきだしました。

それからは、Aも私をいじめなくなり、遊びにも誘ってくれるようになりました。

Cは、勇気を出してAに注意しました。私は、そんなCから行動する勇気ももらいました。今までは、いじめやクラスのことを真剣に考えてこなかったけど、それではだめだと考えが変わりました。

また、人権の話をしてくださった合田先生も、

「自分に指に向けて、変わろう。」

と、話してくれました。

つらいことや嫌なことは、かくそうと思えばかくすことができます。だけど、それでは何も変わらないと思いました。これからは、

「いじめはいけない。」

「悪いことは悪い。」

と、自信をもって言えるように行動していきたいと思います。

## 作文【中学生の部】

「空気を読む」とは何ですか

(中学一年生)

「おまえ、空気読めよー。」

これは小学生の頃道徳の授業中に一人だけ意見の違った私に友達がふざけて投げかけた言葉です。その友達は、教室のみんなに白い目で見られている私や静まり返る教室の「空気を読んで」フオローの意味で発してくれた一言だったと今なら思えます。

しかし、その時の私は意見も自分のことまでも否定されたような気持ちになりとてもショックで何も言えなくなりました。数学のように答えは一つではないような質問をされた時や、話し合いをする時など、みんなでいろいろな意見を出し合って、自分とは違う意見でも認め合ったり理解しようと歩み寄る努力をすれば、知恵や選択肢も増えてみんなが高め合えるのに、みんなと同じでなければと、空気を読んで自分の意見を発言できないのではないのでしょうか。人と違うこと、間違えることが許されないような空気、閉塞感。それは教室の壁を超えて社会全体まで広がり、自らが自らを生きづらくしているような気さえします。

最近では、SNSで著名人や芸能人の発言が炎上したりするなど、一人に対して大勢が匿名で猛烈にバッシングをしているのも、同じような心理が隠れているように思います。これでは誰もが萎縮して本音を話せなくなってしまう。空気を読んで人の顔色をうかがって、自分の意見を押し殺してまでみんなと同じにしないといけないのはとてもしんどいことだと思います。みんなの意見をみんなが受け入れることで、社会は変わってくると思うし、差別やいじめ、偏見も減ってくるのではないのでしょうか。

二〇二〇年には東京でオリンピック・パラリンピックが開催されて、世界中から選手や観客が日本に集まってきました。その時に、物怖じすることなく自分の意見や相手の意見を伝え合って、外国の人たちとも楽しく交流できるようにしたいです。私たちが成人する頃には、世界を舞台に仕事するようになっていくかもしれない。自分の意見をしっかりと持ち、それをハッキリと主張できる勇気を持っている人にならないといけません。これからは日本も変わらなれないといけないし、世界と対等に渡り合えないと改めて思いました。

そのために、少しずつでも誰もが自由に発言でき、そして多様なマイノリティーや違いに寛容になれる優しい社会にしていきたいです。今はまだ多勢に無勢の力に押し切られてしまおうとしても、一人一人が意識を変えて行動していけば、未来を大きく変えることができるのではないのでしょうか。例えば、遙か昔から今日に至るまで、長い間なかなか無くなならない差別やいじめ。加害者でも被害者でもない人が、解決への大きな鍵を握っているように思います。自分には関係がないと見て見ぬふりをする人や、自分も被害者になることが怖くて止めることができない人もいることとあります。誰かが「やめようよ。」と声を上げたり、「大丈夫？」と手を差し延べることが当たり前になれば、私たちは変わっていけると思います。

今ここで未来を担う私達が立ち上がらなければなりません。違うことを恐れず、勇気を出して自分の意見を述べた小学生の私に拍手を送りたいと思います。「空気を読む」ことは、いろんな場面で重宝されるかもしれません。でも私は、空気を読まなくてもいい空気をつくれる人になりたいです。

## 優しさのカタチと想像のチカラ

(中学三年生)

私の伯母と伯父は耳が聞こえません。伯母は生まれつき、伯父は四歳の時高熱で、耳が聞こえなくなったそうです。

障がいと聞くと接しにくそうだったり、関わり方が分からないと思う人もいるのではないのでしょうか。

実は私も、小さい頃は全く接し方が分からなくて、伯母や伯父と思いつきり何かを楽しむことができませんでした。さらに愚かしいことに、伯母や伯父の話し方が自分達と変わっていて、よく聞きとれないために交流をさけていたときもありました。確かに伯母や伯父の話し方は私達と変わっていますが、今では普通に聞き取れます。昔の私は緊張してよく聞けていなかったのかもしれない。

さて、小学三年生になった頃ようやく私は自分の伯母や伯父に対する態度がよくないことに気付きました。それだけではなく、今度は手話や指文字に興味を持ちました。これらを使って伯母や伯父との交流を積極的にしたいと思ったのです。

なぜ手話や指文字に興味を持ったのかというと、同い年の従兄弟や母が上手に手話や指文字を使ってそれは楽しそうに会話をしていたからです。とても羨ましくて、同い年に負けた気がして悔しくて、その年の夏休みの自由研究で手話や指文字を調べ、覚えしました。

このことがきっかけとなり、その後もよく障がいがある人のことを考えたりするようになりました。

中学生になったある日、友達と遊んでいると車椅子に乗った人を見かけました。友達はその人を見てかわいそうだと言いました。

私は本当にあの人はかわいそうなのだろうか、と思いました。

車椅子の方にとっては段差を越えることでさえ、私達が段差を越えるよりも難しいことは想像に難くありません。私の伯母や伯父も、他の人が分かるように話す技術や読唇術を身につけるのは大変だったと思います。でもそれらの行動は、決して私達に同情してほしくてやっているのではないと思います。彼らにとってこれは、私達が社会でより良く生きるために学ぶことと同じことなんだと私は考えます。

ではどうすればもっと、障がいがある人が暮らしやすい環境の整った社会になるのでしょうか。私が思うに、答えは簡単です。例えば、点字ブロックの上をむやみに踏んで歩かない。安易にスロープを使わない。国際シンボルマークのついた駐車場に気やすく車をとめない……。このような、障がいがある人や怪我をして生活に支障を来している人等の社会的弱者のことを考えた環境への理解と優しさが必要なのです。

先ほど例に挙げたことを行うとどうなるのでしょうか。まず、点字ブロックをむやみに踏んで歩くと凸凹が減り、点字ブロックの場所が分かりにくくなるため、目の不自由な人が困ります。次に、スロープを体に負担のない人が使うことで、ただでさえ車椅子を操作しながら進まないといけなかったり、歩きにくい人が歩くのに、人が多いと通れません。また、国際シンボルマークの付いた駐車場に気やすく車をとめると、車の乗り降りが大変な人が、広めの駐車スペースを使えなくなるためもっと大変な思いをしなければなりません。

最近、国際シンボルマークの付いた駐車スペースの間、つまり車を駐車したときの車と車との間に車を駐車する人がいるというニュースを見ました。私はそれを見てとても驚きました。国際シンボルマークが付いた駐車スペースは確かに広く、自然と車と車との距離は広くなります。そのスペースをふさいでしまうことは、車の乗り降りを更に困難にさせると容易に想像できます。

このようなことにならないように、私達に更に必要となっていくのは想像力だと思います。

例えば、「この駐車場には国際シンボルマークが付いている。私がお店に行けるだろうけど、車の乗り降りが大変な人は狭い駐車スペースに車を止めなければならぬ。その人たちは余計に苦労しないといけなくなるからここにとめるのはやめよう。」や点字ブロックを踏んでいることに気付いたら、「点字ブロックがすり減るから、気をつけよう。」などと、考えられると素敵だと思います。誰のために、どのような目的でそこにあるのかを考えられると良いと思います。

この想像力があれば、人のことを考えて行動するため、人と人が助け合う、暮らしやすい社会になると思います。その社会を明るくするための「想像力」を誰もが持っているのだから、十分にそれを使って思いやりと優しさのあふれる社会をつくっていききたいです。

## 標語

### 【小学生の部】

学年

- ・ あいさつと えがおでつながる 人與人 五年生
- ・ 見てるだけ？ 勇気を出して 動こうよ 五年生
- ・ やめようよ そのからかいが いじめだよ 五年生
- ・ 誰かじゃなくて 自分が動く 六年生
- ・ 悪く言うのが人間の弱さ 助け合うのが人間の強さ 六年生
- ・ その言葉 いのちを奪う 引き金に 六年生
- ・ 差別はダメ 言って終わらず 行動へ 六年生
- ・ 「大丈夫？」あなたの言葉が役に立つ 六年生

【中学生の部】

学年

・その言葉 のせていいの？ SNS

一年生

・気付いてる？ 言えない静かな SOS

一年生

・「大丈夫」 隠した本音 見逃さないで

二年生

・考えよう 言葉の重み 相手の気持ち

三年生

・心の傷 あなたの一瞬 私の一生

三年生



# メッセージ「あなた大切な人へ」

## 最優秀賞

(宛先) 「近所のみんな」へ

いつも本当にありがとう。生まれたときから家族のように接してくれて、ずっとこんな  
いなか嫌だと思っていたけれど、成長すればするほど本当にすばらしい場所に生まれて  
くることができたと思います。みんな年を取ってしまったけど体調に気をつけて少しで  
も長生きしてね。みんなのことが大好きです。  
(高校1年生)

## 優秀賞

(宛先) 「パパ」へ

最近、ケンカをしてからあまり話さなくなりましたね。パパの期待に応えられなかつた  
り、反抗したりしてごめんなさい。パパは態度には出さないけどいつも心配してくれて  
る事ママたちから聴いています。本当にごめんなさい。いつもありがとう。だいすきで  
す。これからも元気でいてください。  
(高校1年生)

(宛先) 「父」へ

新聞販売会社で私が寝る時間に起きて、仕事に行くこともあった父。それを、二十年以  
上続けて六人家族を養い守ってくれたこと、心から感謝してます。私が起きている時は  
疲れて寝ていて、いつもリビングにいないから今でも上手く話せず、会話はまったく続  
かないけど、とても尊敬していて、自慢の父です。  
(高校3年生)

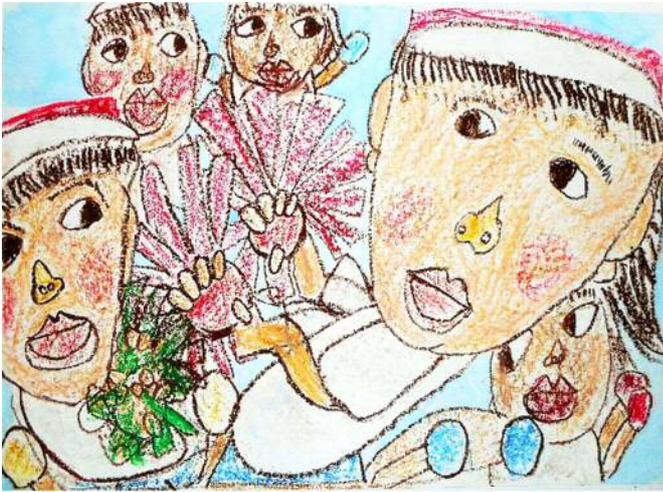
(宛先) 「母」へ

共働きで忙しい中、いつも僕の弁当を用意してくれてありがとう。夕飯の残りものばかり  
りだけど毎日朝早くから頑張ってくれて作りあげてくれる弁当箱の中には愛情も一緒につめ込  
まれているのかと思うと感謝の気持ちで心が満たされます。照れくさくて口に出しては  
言えませんが産んでくれてありがとうと綴ります。  
(高校1年生)

(宛先) 「妻」へ

結婚記念日おめでとう。あなたに「ありがとう」の一言を照れくさくてなかなか言えま  
せん。でも、あなたにはいつも心から感謝の気持ちでいっぱいです。いつも愚痴も言わ  
ず支えてくれてありがとう。あなたと出会えて最高に幸せです。お互いいつまでも、元  
気で素晴らしい人生を歩んでいきましょう。  
(一般)

# 《小学生の部》



1年生



1年生



2年生



2年生



2年生



3年生



3年生



4年生



4年生



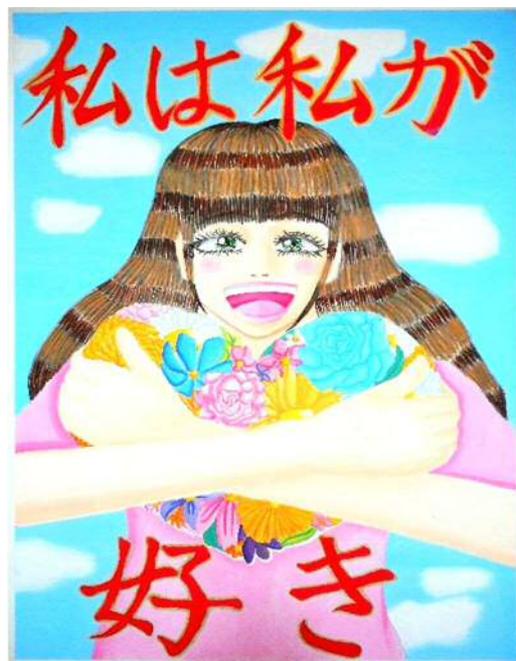
4年生



6年生



6年生



6年生



6年生



6年生

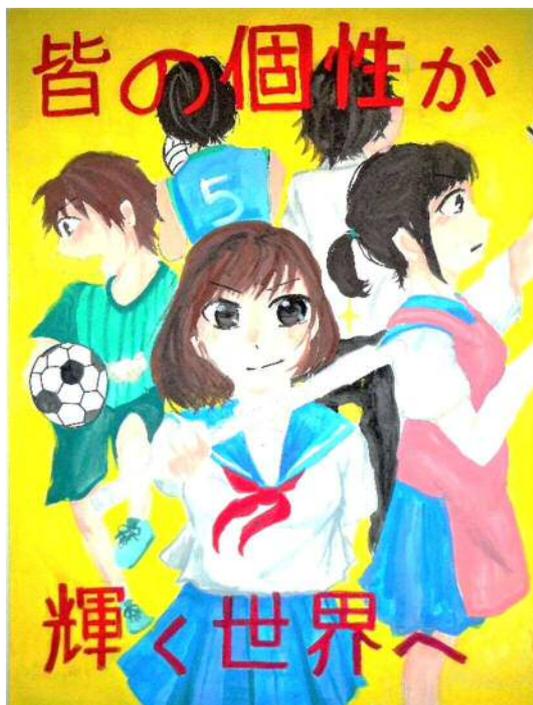
# 《中学生の部》



2年生



1年生



3年生



3年生



3年生

# 人権尊重都市宣言

すべての人々の人権が尊重される自由で平等な社会の実現は全世界共通の願いである。

しかしながら、現実の社会生活においては人権が侵害される事象が依然として存在しており、これを解消することは私たち全市民に課せられた責務である。

よって、当市議会は、あらゆる差別を撤廃し、すべての人々の人権が保障される明るく住みよい地域社会を実現するため、ここに人権尊重都市宣言を決議する。

平成3年3月27日

名張市



名張市子ども条例に基づく「ぱりっ子会議」  
考案キャラクター なばりん

—人権作品集—  
2020年1月発行  
名 張 市  
名張市教育委員会  
名張市人権啓発まちづくり事業推進会議

この冊子は再生紙を使用しています。